

令和5年度の学校評価

| 本年度の重点目標 | ① 安全で安心できる学校づくり ② 個に応じた教育活動の充実 ③ 学校からの発信力の強化 | | |
|----------|--|---|--|
| 項目(担当) | 重点目標 | 具体的な方策 | 留意事項 |
| 小学部 | 「笑顔あふれる小学部」を目標に、円滑で明るい人間関係や健康で主体的な取り組みを育成するために、学校生活全般をとおして、創意工夫をしながら、児童の持っている力を最大限に引き出し、将来の生活する力を高めしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や相手を思いやる気持ちなどの円滑な人間関係や、要求や報告などのコミュニケーション能力の育成を、学校生活全般をとおして支援する。 ・児童一人一人の課題や目標について、保護者や職員間で共通理解を図り、自立活動をはじめとした学校生活全般をとおして、児童自身が課題を理解しながら主体的に身近な処理能力や学習面を向上していくことができるよう支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・将来の社会生活を営む上での基礎的な力である挨拶や返事が自発的に言えることや、自分の要求や体調をスムーズに伝えられることを、個々の実態に応じた表現の仕方ですら確実にできるように丁寧に支援していく。また、周りの児童が素直に「ありがとう」とお礼が言えるようにする場面を多く取り入れることで、友達を思いやる心や明るい人間関係を育成する。 ・保護者や職員間で具体的な支援方法についての共通理解を図り、自立活動等で効果的な補助具の使用や学習環境を整えることで、児童が「やってみよう」と主体的に取り組めるようにする。その際、褒めたり励ましたりすることを基本に達成感や成就感を味わえるようにする。 |
| 中学部 | 生徒の実態や特性を把握し、身に付けてほしい力を職員全体で周知して、卒業後の生活を見据えた教育活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の課題や目標を、中学部の全職員で共有して、指導者が代わっても、同じ支援を進めることができるようにする。 ・自立活動を中心として、学校生活の様々な活動に楽しく参加して、経験を増やしていく。 ・挨拶や名前を呼ばれたときにしっかりと返事をすることや、友達と協力して物事に取り組むことで、学校生活を楽しく過ごすことができるように支援する。 ・生徒の実態に応じた適切な進路先を話し合い、具体的に本人と保護者に提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究やJsKepを活用して、より客観的なデータに基づいて支援方法を考えていく。 ・部会での生徒情報で、連絡だけでなく、学校生活での目標と合わせて情報共有する。 ・生徒の興味・関心の高い教材を作成し、楽しく自立活動に取り組むことができるよう配慮する。 ・教職員から元気に挨拶することを基本として、挨拶することで得られる楽しさや、コミュニケーションの広がりを実感できるようにし、主体的に挨拶できる環境を整える。 ・中学部の段階で限定的な提案にならないよう配慮し、幅をもたせた選択肢を提案する ・教師が中心に進めるのではなく、地域の説明会等の情報を共有して、保護者が主体的に卒業後の生活について向き合えるよう促す。 |
| 高等部 | 卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力、生活する力を伸ばす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コース別の支援などをとおして卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。 ・生徒一人一人に対して的確なアセスメントを実施したり、生徒の課題や支援方法を学校、家庭、関係諸機関とで共有したりすることで、実態や特性に応じた生徒指導、進路指導の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各コースにおける指導内容や目標、身に付けたい力を明確にすることで、指導内容の精選・充実を図る。 ・保護者、関係諸機関との連絡を密にし、情報共有と連携に努める。また、学年や部、必要に応じて学校全体で支援を検討し、共有することで組織的な対応ができるようにする。 ・生徒個々の課題や具体的な指導・支援の方策を明確にするため、校内研究や研修を活用し、教員一人一人の専門性の向上を図る。 ・授業内容や支援方法について常に振り返りをするすることで、より良い授業展開工夫し生徒が「楽しい」と感じる授業を実践できるようにする。また、生徒や保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけていく。 |
| 総務 | 分掌内での業務に関する作業が効率よく進むようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムや学校だよりなどの作成に関しての手順表を見直し、より効率よく作業が進められるようにする。 ・校内LANやグループウェアを活用し、負担が少なく効率よく業務が進められるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題等が生じた場合は速やかに連絡や報告を行い、対応策を考える。記録を残し次年度に引き継げるようにする。 ・年間計画表を作成し、見直しをもって作業ができるようにする。 ・他分掌の協力を得ながら、活用の仕方を覚えたり、考えたりする。 |

| | | | |
|------|--|--|---|
| | | | |
| 教 務 | 個に応じた指導や教育活動の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に迫った教育活動を組み立て、集団や社会生活に向けた指導、支援の充実を図る。 ・保護者のニーズに合った教育活動の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントを基に個別の教育支援計画の活用や自立活動ケース会の充実を図る。 ・P D C A サイクルによる授業改善をおこなうことで、集団における一人一人に沿った教育活動の充実へと繋げる。 ・支援、指導の充実が図れるよう日常の生徒の様子について把握する。 ・個別懇談で十分な話し合いを行い、保護者との信頼関係を深める。 ・個別の教育支援計画を十分に活用し、保護者や関係教職員と共通理解を図る。 ・関係機関と連携し、必要に応じてケース会を実施する。 |
| 自立活動 | 職員の専門性を高め、自立活動の指導の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部における自立活動の指導の課題等を集約し、助言する。 ・関係する分掌と連携し、必要な情報を交換して、児童生徒へのよりよい支援・指導を目指す。 ・自立活動の全体研修をより充実させる。 ・自立活動ライブラリーの充実と整理を引き続き行うほか、現在自立活動室にある教材・教具についても整理し、職員に情報提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部の自立活動部職員がパイプ役となる。必要であれば関係する分掌等に働きかける。 ・自立活動の指導が円滑に行われるよう、日ごろから他の分掌との情報交換を丁寧に行う。 ・昨年度の反省を参考にし、実践に活かせる充実した内容の研修を計画する。 ・現在本校が所有している教材・教具をデータにまとめ、使用したい教材・教具がすぐに検索できるようにする。 |
| 教育支援 | <p>地域のニーズに応じた相談活動等とおして、特別支援学校のセンター的機能の充実に努める。</p> <p>支援・指導の充実に向け、校内支援体制の向上を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・相談活動において、地域の小中学校及び高等学校の対象児童生徒の特性や教育的ニーズを把握し、効果的な支援方法について検討し、情報提供する。 ・様々な課題やニーズに対応できるよう、各校及び本校の特別支援教育コーディネーターのスキルアップに努める。 ・地域の関係機関と連携し、本校の児童生徒の様々な課題に応じた支援に取り組む。 ・支援会議が必要なケースへの呼びかけやスクールカウンセラー等の活用を提案を行い、児童生徒への適切な支援体制を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習面、行動面の課題だけでなく、自立活動や進路についての相談が増えているため、各分掌と連携してよりよい相談活動ができるよう事前準備に努める。 ・特別支援教育に関する情報や研修内容を共有したり、発信したりする。 ・支援会議の実施後やスクールカウンセラー等の活用後に、支援の評価・改善を行うようにする。校内や関係機関との共通理解を図りながら継続した支援ができるよう努める。 |
| 研 修 | 全職員が研究研修に対する意識を高め、自己研鑽に努められるようにする。研究研修で得た知識を日々の指導に還元できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校研究で「ICT を効果的に活用した授業実践」に取り組み、ICT 教育についての知識を深める。 ・校外研修だけでなく、e ラーニング研修など校内で受講できる研修について推進する。 ・職員のニーズに合った研修内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践シートを基に、児童生徒の実態に適した ICT 活用方法を考えられるようにする。 ・研究グループ全員で取り組めるよう、研究の進め方や内容を明瞭化する。 ・情報部や自立活動部と連携し、ICT 教育やアセスメントを基にした授業計画等、職員の専門性の向上を図る。 ・各種研修を集約し、グループウェアに掲載する。 ・他分掌と協力し、職員の意見を反映させながら |

| | | | |
|-------------------------|--|---|--|
| | | を検討し、全校研修に取り入れる。 | ら、全校研修の内容の充実を図る。 |
| 図 書 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、職員が利用しやすい図書室環境の整備と、児童生徒の読書活動のきっかけ作りに努める。 ・仕事内容の改善と効率化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の配架方法の見直しと改善を行う。 ・他の分掌会や教科会に依頼して除籍本の選定を行う。 ・様々な場面で本と親しめるような読書教材の提供や本の紹介を継続する。 ・図書室行事の内容を工夫し、他の分掌等と連携して充実を図る。 ・図書館報や図書室行事の内容・時期・頻度等の見直しを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・閲覧頻度の高いシリーズや作者の蔵書をまとめる等、本を探しやすい配架方法に心がける。 ・職員に蔵書についてより知ってもらう機会と位置づけて除籍本選定を依頼する。 ・職員が授業で利用しやすいように蔵書紹介や読書教材の提供を継続する。 ・読書週間では、児童生徒が楽しめる内容を工夫し、給食の献立に関連した栄養教諭との共同企画を継続する。 ・図書室活動の質を落とさず、仕事の精選と効率化を図れるように工夫する。 |
| 情報教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・新設したホームページやネットワーク機器の有効的な活用を促進する。 ・児童生徒の ICT 活用を促進できるよう、指導者への活用研修を充実する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新については、発信する内容や方法を情報化推進委員会で改めて精査・整理し、更新手続きも含め更新の在り方を具体化する。 ・情報教育部で研修資料や講座を実施することに加え、専門研修に関する情報提供も積極的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新は、情報発信に伴う個人情報セキュリティ面に関することや、更新にもなう業務の多忙化も合わせて考慮する必要があり、学校全体の意見や考えを総合的にまとめ、更新の在り方を具体化する。 ・ICT 活用促進を着実に進めることができるよう、児童生徒用タブレット端末の活用事例に焦点をあてて情報発信を整理して行い、研修部と連携しながら研修機会の充実を図る。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策の充実 ・生活の手引きの見直し、全職員で共通理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入時の対応マニュアルを見直し、職員間で共有する。 ・時代にあった生活の手引き（校則）になっているか見直しをする。見直しをした手引きを、部会などで共通理解をしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入時対応訓練を実施し、その際にマニュアルをしっかりと見直しをする。見直した上で、フローチャートを作成し、各教室の見やすい場所に掲示していく。 ・生徒指導提要进行を参考にしながら、生活の手引きの見直しを進める。見直しをした手引きを、職員、PTA役員の保護者に確認していただき、意見を集約する。集約した意見を参考に再度見直しをし、本校の生活の手引きとしていく。 |
| 保 健 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の見直しを図る。 ・学校内を清潔に保つことができるように清掃分担や掃除道具を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症法上5類に引き下がるとき、特別教室等の人数制限の緩和や学校活動における制限の緩和を行う。 ・清掃分担の割り振りを見直し、一部の職員に負担がかからないように計画をする。 ・計画的に劣化した掃除道具を新しい物に交換していけるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内の対応を変更する場合、全職員に周知を行い、児童生徒の実態に応じて段階的に実施できるよう呼びかける。 ・緩和するだけでなく、予防に向けた対応を提示できるようにする。 ・校内の感染者が増加した場合、一時的に制限を設け、児童生徒の安全に配慮する。 ・学部ごとに担当者を設け、道具の管理ができるようにする。 |
| 進路指導 | 本校で行われているキャリア教育の取組や進路選択に必要な情報の提供を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学部に合わせて進路の手引きや進路説明会の内容を充実させる。 ・進路だよりを児童生徒、保護者のニーズに沿った内容となるように工夫し、充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学部で身に付けてほしい力や本校で行っているキャリア教育の取組について伝え、学校と家庭が情報共有をしながら、協力して児童生徒の力を伸ばすことができるようにする。 ・現在の学校生活と卒業後の進路先での生活や環境の違いを伝えることで、見通しをもった上で進路選択をし、卒業後に安定した生活を送ることができるようにする。 ・児童生徒や保護者から進路に関する意見や質問を収集し、進路だよりに反映させる。 |
| 学校関係者評価を実施する 主な評価の視点 | | <ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の健康や環境を適切に管理し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。 ② 教員研修の充実を図り、教員一人一人が自信を持って質の高い教育活動を提供する。 ③ 児童生徒一人一人を見据え、個に迫った目標を設定し、教育活動を進める。 ④ ホームページ、各種たより、説明会等を通じ、児童生徒、保護者のニーズに応えられる迅速で丁寧な情報提供を行う。 | |